

い物したりと、アメリカの習慣を知ることができました。また、コーリーの家族と同じく、シーシーの家族はとても優しく、楽しかったです。おはようやありがとう、数字など、知っている様々な日本語を、私に教えてくれました。

私がアメリカで、一番勉強になったことは、英語です。私は英語に興味があるので、教科書に載っている文法や、テストに出てくる単語が、実際にアメリカで使われているのか、とても気になっていました。そして、実際に行って、アメリカ人と話してみると、海外ドラマなどとは違い、伝えようとしてくれていたようで、単語や文法がわからなくても、理解できました。他言語のひとの会話も、とても楽しかったです。でも、自分が知っている単語や文法が日常会話に出てきた時は、やっぱり嬉しかったです。

アスペン派遣を終え、アスペン派遣に関わった方々にとっても感謝しています。また、私のホストファミリー

ーに、今度は家族できてもらいたいです。そして、英語も、これまで以上に頑張っていきたいと思います。

アスペンに行つて

満永 秀誠

私が、アスペンにいった感じたこと、学んだことは、アスペンの人はみんなフレンドリーだということです。その時会ったばかりなのに一緒にバスケットボールをして、いいプレーが出たらハイタッチや『ナイス』などと声をかってくれました。その時は、外国にいる人は怖いと思っていたのがなくなり、みんな優しいのだなと考えが変わりました。私は、言葉が違ふというだけで、ちゃんとした英語を話さないと伝わらないと思っていました。しかし、行ってみると『伝えようとする気持ちがあれば、伝わるのだな』と思いました。これからは、言語が違つても自分で壁を作らないで交流していきたいと思えます。



次に学んだことは、アスペンの学校の違いです。アスペンの学校は、プログラムミングの授業があったり一つの敷地に幼稚園から高校まであったりします。学校にスマホを持っていくこともできます。私が一番驚いたのは、日本の場合、授業は机に座ってやりますがアスペンの場合教室の好きな所でやれるのがびっくりしました。

私は、今回の短期留学をやつて初めての事ばかりだったけれど日本とは違うところが沢山見つけられて勉強になりました。これを機

にもつと外国について興味を持つてみようと思えます。このような機会を作つてくれた皆さんに感謝したいと思えます。

大切な思い出、アスペン

藤田 遥誠

私はアスペンに行く事にあまり乗気ではありませんでした。Benton (ベントン)には会いたかつたけれど、不安の方が勝つていました。しかし、行つてみるととても楽しむことができました。

私はアスペンで大切な思い出がたくさんできました。特に思い出に残っていることはサヨナラパーティーです。サヨナラパーティーは私のホストファミリー、Holberts (ヘルツベルク) 宅でやりました。私のホストファミリーも全員いて、また、他の占冠の生徒やアスペン生もいて、とても楽しむことができました。スピーチ発表の時は緊張しましたが、それも大切な思い出です。他にも、バスケットをしたり、たくさん話をして笑い合つたりしました。私はスピーチ発表の時に「私はここに滞在したい。しかし、それをするのができない。」と伝えました。本当に滞在していたかつたのですが、それをするのができなくて、とても別れが悲しかったです。今度、行く機会があれば、私の家族も連れて、また、会いに行きたいです。

他にも、大切な思い出が尽きないほどあります。スキーに行つたこと、スケートをしたこと、ホストファミリーと出かけたり、たく

さん話したことなど数えきれません。

この経験で、私が得たものはたくさんあります。しかし、これからの生活にどんなことが生かされていくのかはまだわかりません。けれど、不安に思っただけ行動しないよりも思い切っただけ行動した方が良く、私は思うようにになりました。この考え方はこれからも私の中に残ると思います。

私はアスペンに行くことができ、本当に良かったです。このような機会を作ってくれた関係者の方たちに本当に感謝します。どうもありがとうございます。

人生を変える経験

多田 凌太

今回の2年生の皆さんの文章を見ていただければ分かるかとおり、「機会があれば、またアスペンに行きたいです。」という言葉が多く見られます。ここから、いかに占中生6人が温かいホストファミリーに迎えら

れ、大変貴重な経験の数々をしてきたかがよく分かるかと思えます。6人はそれぞれ、初めて経験するアメリカの生活、食文化や広大なスキー場を目の前に、目を輝かせながら全力でそれらを吸収しようとしていました。

そんな素晴らしい経験をしてきた6人に私が一番驚かされたのが、帰国後最初に行った英語の授業です。私が授業の最初の挨拶を終え、顔を上げると、そこにはアスペンで見たままの輝いた目をした6人が座っていました。私の話す英語や教科書の英語を必死に聞き取るうとする姿、自分の考えを必死に伝えようとする姿は、まさにアスペンで見

た姿そのものでした。自分がそうであったように、やはりアスペン交換留学では人生を変えるような経験ができるのだなと感じた瞬間でした。

アスペン市と占冠村の姉妹都市提携が三十周年を近々迎えるにあたって、アスペン姉妹都市委員会が交換留学生に期待している、

「人生を変えるような経験をして欲しい。」という願いが、占冠村の中で着実に実現されてきていると今回の2年生や去年アスペンに行った3年生を見て感じています。今後アスペン市との交換留学に参加する子どもたちのために、この事業が末永く続き、さらに充実したものとなるよう、アスペン交換留学によって自分の将来を決めた一人として願っています。

終わりになりますが、今回この素晴らしい事業に引率としてまた参加させていただき、私自身も大きな成長をすることができました。ありがとうございます。

想像力

荒木 健地

このアスペン留学ではたくさんの出会いがありました。優しい人々、美しい山、食べたことのない料理、日本とは違う街並み……。新鮮な出会いに生徒六人の目は輝いていました。

時には困惑することもあ

りました。道具の使い方、日本にはないマナー、何より言葉の壁。「先生、何て言ってるんですか？」と始めの頃はよく質問されました。正直私も知らない単語が多く、苦勞しました。そんな時は想像力が鍵になりました。相手の表情やその場の状況を観察し、想像で補う。相手の思いを想像する。話すときも同じです。どうやったら相手に伝わるか、生徒たちは一生懸命考えながら交流していました。

この経験は生徒たちだけでなく私たち大人にとっても貴重なものでした。我々は共通の言語を使用する集団の中で生活しています。言葉の意味が分かるぶん、ついつい伝わった気になってしまいます。相手の思いを想像すること、自分の思いを伝えることに無頓着になっただけです。

そんな生活に慣れている我々が、異文化と交流することで、普段以上に相手の思いやり、伝えることに丁寧になります。これが交換留学の意義なのだと思います。

す。

占冠村の皆様、教育委員会の皆様、このような貴重な機会をいただき本当にありがとうございます。皆様の支えを受け、この素晴らしい取組が末永く続いていくことを願っております。生徒達が、アスペンで学んだことを日本での生活に活かしてくれたら嬉しいです。私も、想像力をもってその成長を見守っていきたいと思います。

